

第3回復興農学研究会(復興農学会)  
持続可能な地域づくりのなかでの復興

# 複数の未来を見据えた農村戦略

## —撤退と再興の農村戦略—

金沢大学人間社会研究域地域創造学系准教授  
博士(農学) 林 直樹



### 自己紹介と目次

**林 直樹**(はやし なおき):金沢大学人間社会研究域地域創造学系  
1972年広島生まれ。京都大学大学院農学研究科博士後期課程修了、博士(農学)。総合地球環境学研究所研究部(プロジェクト研究員)、横浜国立大学大学院環境情報研究院(産学連携研究員)、東京大学大学院農学生命科学研究科(特任助教・特任准教授)などを経て現在に至る。専門は農村計画学。主な著書に、『撤退の農村計画』(2010年・編著)、『地域再生の失敗学』(2016年・共著)、『秋田廃村の記録』(2016年・共著)、**『撤退と再興の農村戦略』**(2024年・単著)。

第1章:講演の目的と基本的な考え方

第2章:希望ある無住集落の紹介

第3章:「将来的な再興を意識した前向き縮小」と「集落振興の基盤」

第4章:集落づくりで求められる思考実験

第5章:「自主再建型移転」という選択肢

第6章:今後と課題と令和6年能登半島地震からの復興



## 第1章: 講演の目的と基本的な考え方

### 講演の目的

「活性化による常住人口の維持が難しい集落」(多くは山間地域)の生き残りについて、30年以上の非常に長い時間スケールで考える。

集落の生き残り策の選択肢として、「将来的な再興を意識した前向きな縮小」(≒撤退)という新しい手法を提示する。

震災からの長期的な復興にも応用可能

「従来型の活性化を続行」を含め、何を選択するにしても、当事者(元住民やその縁者を含む)による徹底的な議論、当事者の納得が必要。

備考: 目の前の課題

- ・少ない人数でどのように生活を守るか。
  - ・新しい組織づくり(例: 農村RMO)など。
- 現在、活発に議論されているので、非常に重要な課題だが割愛。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第1章: 講演の目的と基本的な考え方

### 基本的な考え方(時代の変化を意識する)

わるい拡大

よい拡大

縮小は論外

戦後～国レベルの人口増加時代の基本な発想

拡大は例外的

よい縮小

わるい縮小

国レベルの人口減少時代の基本な発想

「よい縮小を描くことができるかどうか」が問われている。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



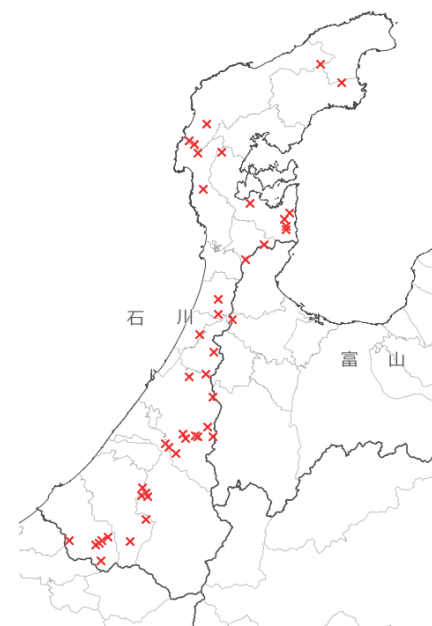
## 第2章：希望ある無住集落の紹介

### 用語の定義

**無住集落**：国勢調査の人口が**ゼロ**になった集落  
**国勢調査の人口**：常に住んでいる人の人口→常住人口

(石川県における調査の場合)  
**大字**(おおあざ)を「**集落**」とみなす。

ダム水没などを除いた無住集落の数：石川県の場合  
2015年時点：33か所  
2020年時点：44か所  
→5年間で**11か所も増えた**ことになる。



右の地図のベース：地理院地図の白地図

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第2章：希望ある無住集落の紹介

### 無住集落の事例紹介①

#### 七尾市外林(そとばやし)町

七尾市役所から約9km、標高約171m、年最深積雪(平年値)：28cm、1995年：現住



・年最深積雪(平年値)の出典：メッシュ平年値2020(気象庁、令和4年公開)：国土数値情報平年値メッシュデータ(以下同様)。 ・役所からの距離：グーグルマップで測定(以下同様)。  
・標高：地理院地図で測定(以下同様)。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第2章：希望ある無住集落の紹介

### 無住集落の事例紹介②

#### 金沢市平(たいら)町

金沢市役所から約12km、標高約229m、年最深積雪(平年値):86cm、1995年:現住



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第2章：希望ある無住集落の紹介

### 無住集落の事例紹介③

#### 金沢市国見(くにみ)町

金沢市役所から約14km、標高約384m、年最深積雪(平年値):96cm、1995年:現住



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第2章：希望ある無住集落の紹介

### 無住集落の事例紹介④

#### 金沢市畠尾(はたお)町

金沢市役所から約16km、標高約257m、年最深積雪(平年値):99cm、1995年:無住



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第2章：希望ある無住集落の紹介

### 無住集落の事例紹介⑤

#### 小松市花立(はなたて)町

小松市役所から約30km、標高約573m、年最深積雪(平年値):134cm、1995年:現住



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第2章：希望ある無住集落の紹介

### 無住集落の事例紹介⑥

#### 輪島市町野町舞谷(まいだに)町

輪島市役所から約28km、標高約202m、年最深積雪(平年値)：38cm、1995年：現住



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第2章：希望ある無住集落の紹介

### 無住集落の事例紹介⑦

#### 白山市柳原(やなぎはら)町

白山市役所から約27km、標高約232m、年最深積雪(平年値)：81cm、1995年：現住



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第2章：希望ある無住集落の紹介

### 無住集落の事例紹介⑧

#### 白山市五十谷(ごじゅうだに)町

白山市役所から約23km、標高約263m、年最深積雪(平年値):80cm、1995年:現住



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第2章：希望ある無住集落の紹介

### 無住集落の事例紹介⑨

#### 七尾市菅沢(すがさわ)町

七尾市役所から約20km、標高約248m、年最深積雪(平年値):34cm、1995年:現住



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第2章：希望ある無住集落の紹介

### 無住集落の事例紹介⑩

#### 鳳珠郡能登町字福光(あざふくみつ)

能登町役所から約16km、標高約176m、年最深積雪(平年値):33cm、1995年:現住



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第2章：希望ある無住集落の紹介

### 無住集落の事例紹介⑪

#### 加賀市山中温泉上新保(かみしんぼ)町

加賀市役所から約22km、標高約347m、年最深積雪(平年値):114cm、1995年:無住



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

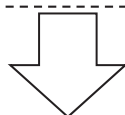




## 第2章：希望ある無住集落の紹介

無住集落の事例紹介からわかること

### 無住集落のイメージ：雑草雑木で覆われた薄暗い集落



- ・集落の活力は、常住人口だけでは**決まらない**。
- ・常住人口ゼロという極めて厳しい状況となっても**将来的な再興の可能性を残すことは可能**。少数でも「常住人口あり」なら、いわずもがな。



第1章

**第2章**

第3章

第4章

第5章

第6章



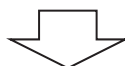
## 第3章：「将来的な再興を意識した前向き縮小」と「集落振興の基盤」

将来的な再興を意識した前向きな縮小

「活性化による常住人口の維持が難しい集落」の生き残りについて、**30年以上**の非常に長い時間スケールで考える。

**長期的**にみれば、集落振興のチャンスはいくらでもある。

- ・気候変更や国際的な情勢の変化
- ・ICTや自動運転といった技術の開発



「再興の好機をじっくりと待つ」という選択肢



「**将来的な再興を意識した前向きな縮小**」(≒撤退)という選択肢

- ・集落の「無理」を少しでも減らす。
- ・当面は常住人口の維持や増加にこだわらない。
- ・集落振興の基盤(集落の力)を優先的に守る。

第1章

第2章

**第3章**

第4章

第5章

第6章

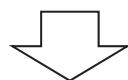


### 第3章:「将来的な再興を意識した前向きな縮小」と「集落振興の基盤」

#### 集落振興の基盤

#### 集落振興の基盤(集落の力)の保持

- ・関係者のまとめり
- ・土地の土木的な可能性(特に表土)
- ・土地の権利的な可能性
- ・集落の歴史的連続性(過去の歴史と現在が連続しているという感覚)
- ・自然の恵みをいかすための古くからの生活生業技術  
(→万が一の長期的な食料不足、エネルギー不足に対する備え)
- ・常住人口だけでなく、集落からの転出者(元住民)も重要。



集落振興の基盤が残っていれば、常住人口が減少しても、極端な場合、ゼロになっても、再興の可能性が残る。

- ・関係者の帰属意識の維持が課題。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



### 第3章:「将来的な再興を意識した前向きな縮小」と「集落振興の基盤」

#### 無住集落から現住集落に戻った集落

#### 京都市左京区大原大見(おおはらおおみ)町

左京区役所から約23km、標高約605m、年最深積雪(平年値):139cm

国勢調査人口、2015年(推計):0人→2020年(推計):2名

(集落代表点付近の人口)



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



### 第3章:「将来的な再興を意識した前向きな縮小」と「集落振興の基盤」

#### 水田にウシを放牧



左: 雑草雑木に覆われた元水田、右: 水田にウシを放牧

右の状態であれば、必要なとき、比較的短期間でもとの水田に戻すことができる。

#### 将来的な再興を意識した「水田の前向きな縮小」

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

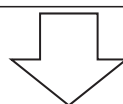
第6章



### 第3章:「将来的な再興を意識した前向きな縮小」と「集落振興の基盤」

#### 複数の未来を想定した集落づくり

活性化による常住人口の維持が難しいかどうか迷うような場合



楽観的な未来と悲観的な未来の両方を想定し、いずれとなっても大丈夫となるように考えておく。「保険」という考え方が大切。



採用例: 長野市中条地区、飛騨市畦畑地区 (写真はいずれも畦畑地区)

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



第4章：集落づくりで求められる思考実験

登場人物の類型化

高関与住民	A集落の国勢調査の <u>常住人口としてカウント</u> され、A集落の一員としての <u>責任感</u> をもって「A集落の住民共同活動」に参加している人。
高関与外部住民	A集落の国勢調査の常住人口として <u>カウントされない</u> が、A集落の一員としての <u>責任感</u> をもって「A集落の住民共同活動」に参加している人。
低関与住民	A集落の国勢調査の常住人口にカウントされるが、A集落の一員としての <u>責任感</u> をもって「A集落の住民共同活動」に参加しているとは <u>いいにくい</u> 人。

住民共同活動：草刈り、水路や集会所の清掃や補修などの作業

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



第4章：集落づくりで求められる思考実験

集落の類型化①

	高関与住民	高関与外部住民	低関与住民
自然回帰型国土	×	×	×
個人維持型居住地	×	×	○
無住維持型集落	×	○	×
単純維持型集落	○	×	×
混住型集落	○	×	○
拡大型集落	○	○	×
入れ代わり型集落	×	○	○
拡大混住型集落	○	○	○

第1章

第2章

第3章

第4章

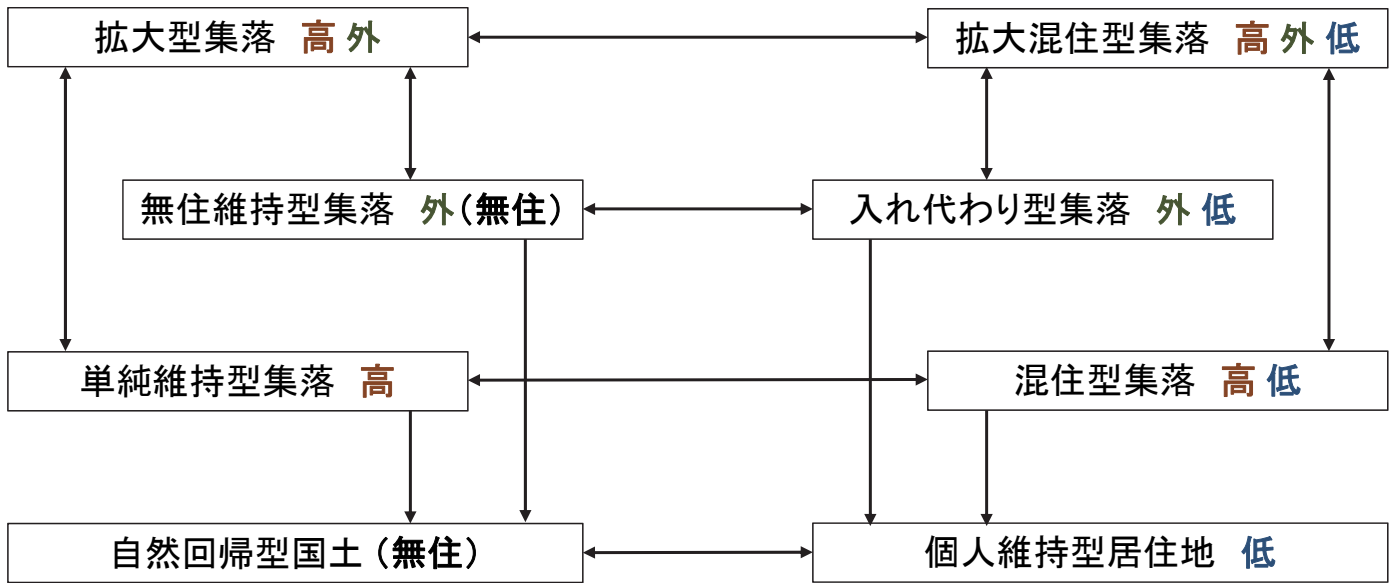
第5章

第6章



第4章: 集落づくりで求められる思考実験

集落類型間の関係



高:高関与住民 外:高関与外部住民 低:低関与住民

第1章

第2章

第3章

第4章

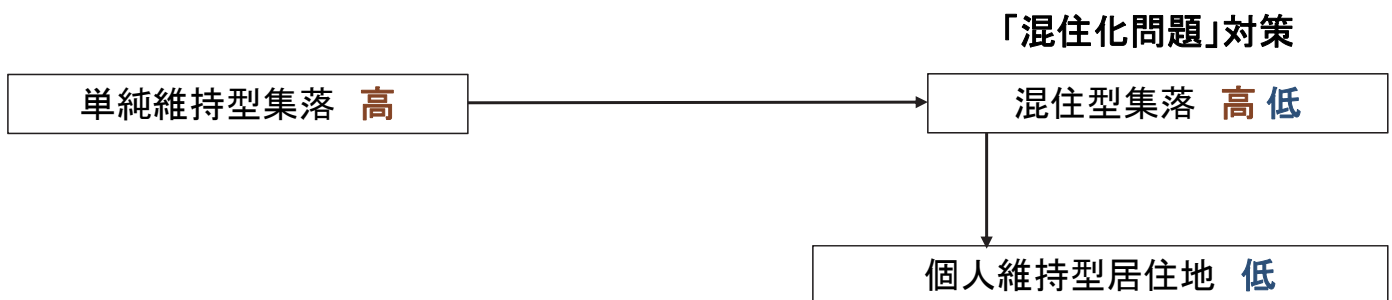
第5章

第6章



第4章: 集落づくりで求められる思考実験

厳しい状況にある小集落の未来: 攻め重視のシナリオ



高:高関与住民 外:高関与外部住民 低:低関与住民

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第4章：集落づくりで求められる思考実験

### 厳しい状況にある小集落の未来：守りのシナリオ

(対策の例)

- ・精神的なよりどころ(例：神社のご神体)の移転
- ・集落に関する石碑の建立
- ・石碑以外の記録づくり
- ・元高関与住民を中心とした団体の立ち上げ
- ・土地の所有者などを調べる
- ・再利用の見込みがない家屋類の撤去
- ・ため池の廃止
- ・住民による土地地用のルールづくり
- ・生活生業技術に関する再現可能な記録づくり

単純維持型集落 **高**

自然回帰型国土(無住)

**高**:高関与住民    **外**:高関与外部住民    **低**:低関与住民

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第4章：集落づくりで求められる思考実験

### 厳しい状況にある小集落の未来：攻めと守りのバランス型

拡大型集落 **高外**

無住維持型集落 **外(無住)**

単純維持型集落 **高**

自然回帰型国土(無住)

対策の例(再掲載)

- ・精神的なよりどころ(例：神社のご神体)の移転
- ・集落に関する石碑の建立
- ・石碑以外の記録づくり
- ・元高関与住民を中心とした団体の立ち上げ
- ・土地の所有者などを調べる
- ・再利用の見込みがない家屋類の撤去
- ・ため池の廃止
- ・住民による土地地用のルールづくり
- ・生活生業技術に関する再現可能な記録づくり

**高**:高関与住民    **外**:高関与外部住民    **低**:低関与住民

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

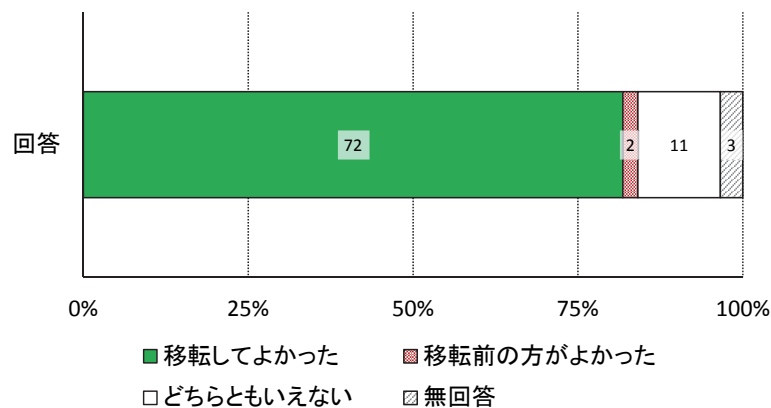


## 第5章:「自主再建型移転」という選択肢

### 過疎緩和のための集落移転(自主再建型移転)

- ・ダム建設などのための集落移転
- ・防災のための集落移転
- ・過疎緩和のための集落移転(自主再建型移転)

- ・強制移住は考えにくい。住民がとりうる選択肢のひとつ。
- ・雪が多い地域のほうが効果的。
- ・過疎地域集落再編整備事業
- ・当事者全員の「納得」が大切。機械的に決めるようなことは厳禁。



出典:総務省自治行政局過疎対策室『過疎地域等における集落再編成の新たなあり方に関する調査報告書(平成13年3月)』2001

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



## 第5章:「自主再建型移転」という選択肢

### 自主再建型移転の例

#### 北秋田市「(旧)小摩当」

1972年全11戸が沢口小学校の跡地に整備された団地に移転

佐藤晃之輔『秋田・消えた村の記録』無明舎出版、1997



左:(旧)小摩当、右:(新)小摩当

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



第6章：今後と課題と令和6年能登半島地震からの復興

ますます重要になるICT(フィールドモニタリング技術)の役割

通勤的な耕作のサポート(例：降水量や水位のモニタリング)

無住地帯の監視(例：獣害防止、ゴミの不法投棄防止)



第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章



第6章：今後と課題と令和6年能登半島地震からの復興

令和6年能登半島地震からの復興

(北陸3県を対象とした試算)

10人未満の農業集落の「属地的な行政サービス」(主にインフラ関連)をすべて停止→削減される歳出は「全体」の2%にすぎない。

- ・「全体」：試算対象市町村の「公債費を除いた歳出決算総額」の合計
- ・属人的な行政サービス(人数に比例するような行政サービス)は一定とみなした場合。
- ・林直樹(2019)：「属地的な行政サービスに伴う北陸3県の市町村歳出の試算」『創立90周年記念2019年度(第68回)農業農村工学会大会講演会講演要旨集』264-265

財政の健全化については、もっと大きな枠組みで時間をかけて議論すべき。

インフラが元どおりになっても、長期的な人口減少傾向に歯止めがかかることは考えにくい。

→今回お話したような人口減少への対応が必要になる。

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第6章

